



# Red Hat Satellite 6.12

## リリースノート

Red Hat Satellite の製品情報、新機能、および既知の問題



# Red Hat Satellite 6.12 リリースノート

---

Red Hat Satellite の製品情報、新機能、および既知の問題

Red Hat Satellite Documentation Team

[satellite-doc-list@redhat.com](mailto:satellite-doc-list@redhat.com)

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

このドキュメントでは、Red Hat Satellite の製品情報、新機能の概要、および既知の問題を説明します。

---

## 目次

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ) .....	3
<b>第1章 RED HAT SATELLITE 6.12 の概要</b> .....	<b>4</b>
1.1. 主な変更点	4
1.2. 機能拡張	4
1.3. バグ修正	7
1.4. テクノロジープレビュー	7
1.5. 既知の問題	8
1.6. 非推奨の機能	10
1.7. 削除された機能	11
<b>第2章 主な参考資料</b> .....	<b>12</b>
2.1. RED HAT SATELLITE とは	12
2.2. サポートされるアーキテクチャー	12
2.3. コンテンツ配信ネットワークのリポジトリとツール	12
2.4. デプロイメントワークフローと参照製品ドキュメント	15
2.5. 製品ライフサイクル	15
2.6. コンポーネントのバージョン	16



## RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに対するご意見をお聞かせください。ドキュメントの改善点があればお知らせください。

Bugzilla でチケットを作成することでフィードバックを送信できます。

1. [Bugzilla](#) のWeb サイトに移動します。
2. **Component** フィールドで、**Documentation** を使用します。
3. **Description** フィールドに、ドキュメントの改善に関するご意見を記入してください。ドキュメントの該当部分へのリンクも追加してください。
4. **Submit Bug** をクリックします。

## 第1章 RED HAT SATELLITE 6.12 の概要

このリリースノートには主に、今回リリースされた Red Hat Satellite 6 のデプロイ時に考慮すべき主な変更点、機能拡張、テクノロジープレビューの項目、既知の問題、非推奨の機能、削除された機能について記載します。この Red Hat Satellite 6 リリースのサポートライフサイクル中にリリースされた更新に関する注記は、それぞれの更新に付属するアドバイザリーテキストに表示されます。

### 1.1. 主な変更点

Red Hat Satellite の 6.12 リリースには、以下の主要な変更が含まれます。

#### Red Hat Enterprise Linux 7 への Satellite のインストールはサポートされなくなりました

Red Hat Enterprise Linux 7 ベースの Satellite インストールのサポートは、このリリースで廃止されました。Satellite Server は、Red Hat Enterprise Linux 8 へのインストールをサポートするようになりました。ただし、Satellite クライアントは影響を受けません。

#### Satellite はリモートジョブ実行のプルモードをサポートする

以前は、Capsule からホストへの接続を禁止するインフラストラクチャーで、プルベースのトランスポート用にホストで Katello-Agent を使用していました。今回のリリースでは、Red Hat Satellite では Message Queueing Telemetry Transport (MQTT) が導入され、Capsule で MQTT ブローカーをバンドルし、Red Hat Client を使用するホスト用に MQTT クライアントをバンドルするようになりました。その結果、リモートジョブのプルベースのトランスポートは Satellite でネイティブにサポートされ、Capsule およびホストで有効にできます。

### 1.2. 機能拡張

Red Hat Satellite の 6.12 リリースでは、以下の機能拡張が提供されています。

#### ホストページの改良点

Red Hat Satellite は、デフォルトでホストの詳細について新しい UI を読み込むようになりました。Hosts > Content Hosts で以前利用できた機能が、新しい Hosts ページで利用できるようになりました。このページにアクセスするには、Hosts > All Hosts に移動し、詳細を表示するホストを選択します。

追加:

- **Overview タブ**
  - Edit ボタンの横にある縦の省略記号をクリックし、Change content source をクリックして、コンテンツソースを変更できるようになりました。
  - Content view details カードの縦の省略記号をクリックし、Edit content view assignments をクリックして、コンテンツビューとライフサイクル環境を変更できるようになりました。
  - System purpose カードを編集することで、ロール、サービスレベルアグリーメント、使用法 (SLA)、リリースバージョン、ホストのアドオンなどのシステム目的属性を設定できるようになりました。
  - Host collections カードの Add to a host collection ボタンをクリックして、ホストをホストコレクションに割り当てることができるようになりました。
- **Content タブ**
  - Packages タブ、Repository sets タブ、および Module streams タブは、表示専用ではなくなりました。



- Packages タブでパッケージをインストール、アップグレード、または削除できるようになりました。
  - Repository sets タブが Content tab の下に配置されました。
  - リポジトリを一括で無効化および有効化できるようになりました。
  - Repository sets タブで、コンテンツビューと環境に固有のリポジトリを表示できるようになりました。
  - Module streams タブで、ホスト上でリモートでジョブを実行することにより、モジュールを管理できるようになりました。
  - リモート実行ジョブが完了したときに通知を受け取るようになりました。
- Traces タブ
    - ホストでトレースを有効にできるようになりました。
    - ホストでアプリケーションを再起動できるようになりました。
  - Insights タブ
    - ホストの推奨事項を確認できるようになりました。
    - ホストに修復を適用できるようになりました。

#### ID フィールドがすべてのリソースを検索可能に

以前は、特定のエンティティの ID 列を検索できませんでした。このリリースでは、すべてのエンティティを ID で並べ替えることができます。以下に例を示します。

```
hammer ansible roles list --order 'id DESC'
```

#### API を使用して Ansible Playbook をインポートできるようになりました。

API を使用して、Capsule にインストールされたコレクションから Ansible Playbook をインポートできるようになりました。

#### mpm\_event モジュールにより、Satellite Server のパフォーマンスが向上

デフォルトの Apache マルチプロセッシングモジュールが `mpm_prefork` から `mpm_event` に変更され、大規模なパフォーマンスが向上しました。

#### Satellite インストーラーのパラメーターの変更

Satellite インストーラーパラメーター `--foreman-proxy-plugin-remote-execution-ssh` は `--foreman-proxy-plugin-remote-execution-script` に置き換えられました。

#### Satellite-installer が Apache httpd モジュールの最小セットをインストールするようになりました

以前は、`satellite-installer` コマンドは Apache httpd モジュールのデフォルトセットをインストールしていましたが、その一部はほとんどの Satellite デプロイメントでは必要ありませんでした。このリリースでは、Apache モジュールのセットが削減され、必要なモジュールのみが含まれるようになりました。`httpd -M` コマンドを実行すると、現在有効になっている Apache モジュールを確認できます。`apache::default_mods:` パラメーターを `/etc/foreman-installer/custom-hiera.yaml` ファイルに追加することで、追加のモジュールを有効にすることができます。以下に例を示します。

```
apache::default_mods:
  - additional_module_1
  - additional_module_2
```

**custom-hiera.yaml** ファイルを編集したら、**satellite-installer** を実行して追加モジュールをインストールします。

## Satellite はリモートジョブ実行のプルモードをサポートする

以前は、Capsule からホストへの接続を許可しないインフラストラクチャーで、プルベースのトランスポート用にホストで Katello Agent を使用していました。今回のリリースでは、Red Hat Satellite では Message Queueing Telemetry Transport (MQTT) が導入され、Capsule で MQTT ブローカーをバンドルし、Red Hat Client を使用するホスト用に MQTT クライアントをバンドルするようになりました。その結果、リモートジョブのプルベースのトランスポートは Satellite でネイティブにサポートされ、Capsule およびホストで有効にできます。

## 完了したジョブに関する電子メール通知

リモート実行ジョブが完了すると、Satellite は、ジョブをスケジュールしたユーザーに要約を含む電子メール通知を送信できます。これは、ユーザーごとに設定できます。各ユーザーは、**Administer > Users > USER > Email Preferences > Remote execution job** で、電子メール通知を受信しない、失敗したジョブに関する電子メール通知、成功したジョブに関する電子メール通知、またはすべてのジョブに関する電子メール通知のいずれかを受信するようにプリファレンスを設定できます。

## ログインページで Satellite バージョンを表示および非表示する

以前は、ログインページのフッターに表示される Satellite のバージョンを変更できませんでした。今回のリリースにより、一般的な設定の **Login page フッターテキスト** のデフォルト値が **Version \$VERSION** に変更されました。**\$VERSION** キーワードは、Satellite インスタンスのバージョンに変換されます。**Login page footer text** 変数の値を空の文字列に設定することで、ログインページのフッターで Satellite バージョンを非表示にすることができます。テキストを再度表示するには、変数をデフォルト値にリセットします。テキストを変数に追加すると、ログインページのフッターに追加のテキストを表示できます。

## Satellite は設定済みの HTTP プロキシを無視する

Satellite が内部でカプセルにリクエストを行う場合、カプセルへの直接の可視性があると想定し、設定された HTTP プロキシを無視します。Satellite は、設定済みのプロキシを受け入れていたため、Capsule がプロキシ経由で到達できない場合には問題が発生していました。ただし、Red Hat コンテンツ配信ネットワーク (CDN) またはその他のコンテンツソースへの接続は影響を受けず、引き続き HTTP プロキシを通過します。

## API ドキュメントが動的に生成し、キャッシュの生成を停止する

API ドキュメント (**/apidoc**) は、リクエスト時に動的に生成されるようになりました。これにより、現在のインストールとオプションに基づいて正確な API ドキュメントが確実に作成されます。ドキュメントの読み込み時間に大きな変化はありません。

## プラグインのインストールまたはアップグレード時に Puma が再起動する

以前は、プラグインが RPM から直接インストールまたはアップグレードされた場合、インストーラーが常に Puma が再起動されるとは限りませんでした。今回のリリースにより、プラグインはインストーラーに通知し、必要に応じて Puma を再起動するようになりました。

## インストーラーを使用した Satellite の Pulp-cli の自動設定

今回のリリースにより、Pulp-cli は、認証用の適切なクライアント証明書を使用するインストーラーを使用して Satellite に自動的に設定されるようになりました。さらに、Pulp cli は、誤って書き込みされないようにドライランモードで設定されます。

## 真偽のテンプレートマクロ

本リリースでは、2つの新しいテンプレートマクロ (真偽) が導入されました。これらのマクロを使用すると、値が整数またはブール値であるかに関係なく、渡された値が true または false であるかどうかを宣言できます。

## ホストコンテンツソースの簡略化された変更

本リリースには、ホストコンテンツソースワークフローでさらに機能拡張が含まれています。Hosts > All Hosts ページからホストのコンテンツソースを変更できます。ホストを選択したら、**Select**

**Action > Change Content Source** をクリックします。ホストの詳細ページで、ホストのコンテンツソースを変更することもできます。縦リーダーをクリックして、**Change content source** を選択します。リモート実行を使用するか、**コンテンツソースの変更** ウィザードによって生成されたコマンドを使用して、コンテンツソースを変更できます。

### 1.3. バグ修正

Red Hat Satellite の 6.12 リリースには、以下のバグ修正が含まれています。

**仮想マシンでの UEFI プロビジョニングのローカルブートが、デフォルトでディスクからのブートになる**

以前は、**PXEGrub2** のデフォルトのローカルブート テンプレートを使用すると、UEFI プロビジョニングのデフォルトのブートエントリーであるディスクからのブートが、一時的に停止されていました。そのため、グローバル設定を使用してディスクからローカルブートを強制する必要がありました。今回のリリースにより、ディスクからのローカルブートがデフォルトのブートエントリーとして復元されるようになりました。その結果、ワークフローを強制する必要がなくなりました。6.12 へのアップグレード後、グローバル設定をデフォルト値にリセットしてください。Satellite Web UI で、**Administer > Settings > Provisioning** に移動し、**Default PXE local template entry** の値をクリアします。

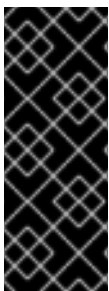
**RHEL 9 ホストをプロビジョニングしても緊急モードで起動しない**

以前は、RHEL 9 ホストをプロビジョニングすると、新しいカーネルを起動しようとしたときに、オペレーティングシステムが緊急モードになることがありました。これは、RHEL 9 キックスタートリポジトリーの更新で解決されています。リポジトリーを、更新されたキックスタートリポジトリーと同期してください。

**無効にされたリポジトリータイプが API ドキュメントに表示されなくなる**

以前のバージョンでは、無効にされたリポジトリータイプは API ドキュメントに表示されていませんでした。これは、API ドキュメントが Satellite インスタンスからデータを取得しなかったために発生していました。今回のリリースでは、API ドキュメントには有効なリポジトリータイプが直接含まれていませんが、代わりに、Satellite インスタンスで有効になっているコンテンツタイプをリストするエンドポイントがあります。その結果、無効にされたリポジトリータイプが API ドキュメントに表示されなくなりました。

### 1.4. テクノロジープレビュー



#### 重要

テクノロジープレビュー機能は、Red Hat 製品のサービスレベルアグリーメント (SLA) の対象外であり、機能的に完全ではないことがあります。Red Hat は、実稼働環境での使用は推奨していません。これらの機能により、近日発表予定の製品機能をリリースに先駆けてご提供でき、お客様は開発プロセス時に機能をテストして、フィードバックをお寄せいただくことができます。詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

以下の機能は、Red Hat Satellite 6.12 ではテクノロジープレビューとして利用できます。

#### OVAL / CVE レポート作成のサポート

Satellite に、Red Hat が提供する OVAL 標準データフィードを使用して、システムの脆弱性をスキャンする機能が追加されました。

**foreman\_openscap** に、OVAL oscap スキャンをトリガーするために使用する OVAL コンテンツをアップロードするための API が含まれています。結果は CVE に対して解析され、Satellite に送信されます。その後、Satellite が管理対象ホストとそれに影響を与える CVE のレポートを生成します。

## OpenShift 仮想化プラグイン

OpenShift Virtualization コンピュートリソースをテクノロジープレビューとして使用して、仮想マシンをプロビジョニングできます。

## カーネル実行 (kexec) テンプレート

PXE なしの起動方法が含まれるカーネル実行テンプレートです。

## ジョブ呼び出しウィザード

このリリースでは、テクノロジープレビューとして **Lab Features** メニューにジョブ呼び出しウィザードが導入されました。

以前のジョブ呼び出し形式のオプションは、ジョブ呼び出しウィザードでも同じで、新しい検索オプションもあります。

デフォルトでは、ウィザードは有効になっていないことに注意してください。設定を有効にするには、**Administer > Settings > Show Experimental Lab**に移動します。

## 他のコンテンツソース

本リリースでは、テクノロジープレビューとして代替コンテンツソース機能が導入されました。代替コンテンツソース機能を使用すると、ローカルに保存されているコンテンツや地理的に近いコンテンツをリポジトリに取り込むことができます。これは、メタデータのみがリポジトリサーバーからプルされ、コンテンツ自体が別のコンテンツソースから同期されるので、リポジトリ同期の迅速化に使用できます。

代替コンテンツソースは、Capsule Server だけでなく、Satellite Server にも設定できます。

別のコンテンツソースを作成するには、**Lab Features > Alternate Content Sources > Add Source**の順に移動します。

詳細は、[Using Alternate Content Sources With Satellite 6.12 \(Tech Preview\)](#) を参照してください。

## 1.5. 既知の問題

現時点で Red Hat Satellite 6.12 には、以下の既知の問題が存在します。

### すべてのデータが削除された無効な Puppet を再度有効化できない

Puppet プラグインが **-f, --remove-all-data** の引数で無効になっている場合に、再度プラグインを有効化しようとする、Satellite maintain が失敗します。

BZ#(2087067)

### ジョブ呼び出しの詳細に、複数のホストにおける誤った実行結果が表示される

複数のホストに対して Ansible ジョブを実行し、一部のホストで実行が失敗すると、すべてのホストでの実行結果がジョブ呼び出しの詳細で失敗としてマークされます。その結果、ジョブの部分的な失敗が考慮されず、実行が成功したホストでも失敗した結果のステータスが表示されます。

BZ#(2167396)

これは 6.12.4 更新で修正されました。

### Satellite Web UI で検出されたホストをプロビジョニングするときに、ホストグループからの情報が完全に継承されない

検出されたホストをプロビジョニングするときに、ホストグループを選択してホストエントリーをカスタマイズしようとする、多くの重要な情報が失われます。これにより、デプロイの試行が失敗します。

回避策として、次のいずれかのアクションを実行してください。

- hammer を使用してホストをプロビジョニングします。

```
# hammer discovery provision --name discovered_host_name \  
--hostgroup-id your_hostgroup_id \  
--organization-id your_organization_id \  
--location-id your_location_id \  
--new-name new_host_name \  
--build true
```

詳細は、[Hammer CLI ガイド](#)の [hammer discovery provision](#) を参照してください。

- 検出ルールを設定し、自動プロビジョニングを有効にして、検出されたホストをプロビジョニングするために手動で介入する必要がないようにします。詳細は、[ホストのプロビジョニング](#)の [Discovery ルールの作成](#) を参照してください。

BZ#(2069324)

バージョン 6.12 へのアップグレードが失敗し、`Nothing to update, can't find new version of satellite-maintain.` が表示されます。

モジュール性の問題により、現在、`dnf` ツールは `rubygem-foreman_maintain` パッケージの関連バージョンを検出できません。

したがって、`satellite-maintain upgrade list-versions` コマンドは、`satellite-maintenance-6.12-for-rhel-8-x86_64-rpms` リポジトリを有効にした後にアップグレードを実行するための Red Hat Satellite バージョン 6.12 をリストしません。バージョン 6.12 にアップグレードする必要があります。

この問題を回避するには、以下のコマンドを使用して、`satellite-maintenance-6.12-for-rhel-8-x86_64-rpms repository` を有効にした後、`satellite 6.12` リポジトリを有効にします。

Satellite Server の場合: `# subscription-manager repos --enable satellite-6.12-for-rhel-8-x86_64-rpms`

Capsule Server の場合: `# subscription-manager repos --enable satellite-capsule-6.12-for-rhel-8-x86_64-rpms`

詳細は、[ナレッジベースのソリューション](#) を参照してください。

BZ#(2143451)

### Red Hat Insights へのホストの登録時のログインエラー

ホストのプロビジョニング中に、コマンド `Insights-client --register --verbose` を実行すると、ホストが Red Hat Insights に登録され、パッケージのインストール後にログエラーが発生しました。ただし、このエラーは 1 回だけ発生し、最初の出力後に繰り返されないため、回避策は必要ありません。詳細は、[プロビジョニングログ](#)で確認できます。

BZ#(2129254)

### Insights タブに、新規ホストへの切り替え後に正しい推奨事項が表示されない

ブレッドクラムスイッチャーを使用して新しいホストに切り替えると、Insights タブには以前のホストからのデータが引き続き表示されます。

この問題を回避するには、Web ブラウザーでページを更新し、新たに選択したホストの推奨事項を表示します。

BZ#(2120640)

## MQTT クライアントが呼び出し時に実行されなかった場合にジョブがプルモードでドロップされる

プルモードのホストでリモートジョブ実行を呼び出し、その時点で **yggdrasild** サービスが実行されていない場合、**yggdrasild** の再起動後、サービスはジョブを実行する代わりにドロップします。ホストで実行中の **yggdrasild** でジョブを再度呼び出す必要があります。

BZ#(2124419)

## データベースの復元時に **qpidd** または **katello\_agent** が失敗する

データベースの復元プロセスで、hammer ping からの **qpidd** または **katello\_agent** が失敗します。回避策として、**systemctl restart foreman** で foreman を再起動して、このプロセスを繰り返します。

BZ#(2124215)

## 1.6. 非推奨の機能

このパートでは、Red Hat Satellite 6.12 で廃止された機能の概要を説明します。

非推奨の機能は、本製品の今後のリリースではサポートされない可能性が高く、新たにデプロイすることは推奨されません。

### パッケージグループアクション

Satellite Web UI のパッケージグループアクションは非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。

### Append domain names to the host

**Append domain names to the host** 設定は非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。FQDN (完全修飾ドメイン名) を使用してホストを識別してください。

### Foreman フック

Foreman フック機能は非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。この機能は、新しい Foreman Webhooks 機能に置き換えられます。ドキュメントはリリース時に提供されます。

### Red Hat Virtualization でのプロビジョニング

Red Hat Virtualization (RHV) と Satellite の統合は非推奨となり、将来のリリースでは削除される予定です。RHV タイプの既存のコンピューティングリソースはすべて削除され、RHV に関連付けられているホストは切断されます。

### Bootstrap.py

ホストの Satellite Server または Capsule Server への登録に **bootstrap.py** スクリプトを使用していましたが、グローバル登録テンプレートで作成した **curl** コマンドを使用するようになりました。

### エンタイトルメント

エンタイトルメントベースのサブスクリプション管理は非推奨となり、将来のリリースで削除される予定です。

サブスクリプションについては、管理者のエンタイトルメントエクスペリエンスを簡素化する [Simple Content Access](#) の代用が推奨されます。

### Katello Agent

Katello-agent は非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。ワークロードを移行して、**Remote Execution** 機能を使用するようにしてください。

### Katello-ca-consumer パッケージ

**katello-ca-consumer** パッケージは非推奨であり、将来のリリースで削除される予定です。グローバル登録テンプレートを使用して、ホストを Red Hat Satellite に登録してください。

## 1.7. 削除された機能

このパートでは、Red Hat Satellite 6.12 で削除された機能の概要を説明します。

### Red Hat Enterprise Linux 7 への Satellite のインストールはサポートされなくなりました

Red Hat Enterprise Linux 7 ベースの Satellite インストールのサポートは、Satellite 6.12 から廃止されました。Satellite Server は、Red Hat Enterprise Linux 8 へのインストールをサポートするようになりました。ただし、Satellite クライアントは影響を受けません。

#### **:unattended:** 設定

**:unattended:** 設定は **settings.yaml** ファイルから削除されました。Satellite はデフォルトで **true** に設定されます。

## 第2章 主な参考資料

### 2.1. RED HAT SATELLITE とは

Red Hat Satellite は、物理環境、仮想環境、およびクラウド環境でのシステムのデプロイ、設定、および保守を可能にするシステム管理ソリューションです。Satellite では、一元化された単一のツールを使用して複数の Red Hat Enterprise Linux デプロイメントのプロビジョニング、リモート管理、モニタリングが可能です。

Red Hat Satellite Server は、Red Hat カスタマーポータルおよびその他のソースからのコンテンツを同期し、詳細なライフサイクル管理、ユーザーおよびグループのロールベースのアクセス制御、サブスクリプションの統合管理、高度な GUI、CLI、または API アクセスなどの機能を提供します。

Red Hat Satellite Capsule Server は、Red Hat Satellite Server のコンテンツをミラーリングして、さまざまな地理的なロケーションにコンテンツを共有します。ホストシステムは中央の Satellite Server からではなくローカルの Capsule Server からコンテンツおよび設定をプルできます。また、Capsule Server は Puppet サーバー、DHCP、DNS、TFTP などのローカライズされたサービスも提供します。Capsule Server を使用すると、環境内でマネージドシステムの数が増えたときに Red Hat Satellite を簡単にスケールリングできます。

### 2.2. サポートされるアーキテクチャー

Satellite でサポートされるアーキテクチャーの概要は、[サポート対象のクライアントアーキテクチャー](#)を参照してください。

### 2.3. コンテンツ配信ネットワークのリポジトリとツール

このセクションでは Red Hat Satellite のインストールに必要なリポジトリについて説明します。

Red Hat Satellite は、コンテンツ配信ネットワーク (CDN) からインストールすることができます。CDN からインストールするには、オペレーティングシステムのバージョンとバリエーションに合った正しいリポジトリを使用するように **subscription-manager** を設定します。

CDN リポジトリを有効化するには、以下のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos --enable=reponame
```

CDN リポジトリを無効化するには、以下のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos --disable=reponame
```

以下の表は、Satellite Server、Capsule Server、および Satellite Maintenance のリポジトリのリストです。

表2.1 Red Hat Satellite Base、Capsule、Maintenance、および Utils for RHEL 8

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite 6.12 for RHEL 8 x86_64 (ISO、RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-6.12-for-rhel-8-x86_64-{isos, rpms, debug-rpms, source-rpms}



リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Capsule 6.12 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-capsule-6.12-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Maintenance 6.12 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-maintenance-6.12-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Utils 6.12 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-utils-6.12-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

以下の表は、Red Hat Satellite Client のリポジトリのリストです。

表2.2 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 6

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 6 Server 用 - ELS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-6-server-els-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 6 for System Z 用 - ELS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-6-for-system-z-els-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表2.3 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 7

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Desktop 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-desktop-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Workstation 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-workstation-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for Scientific Computing 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-hpc-node-satellite-tools-7-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power LE 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-le-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for System Z 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-system-z-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - Update Services SAP Solutions) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-e4s-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power LE 用 - Update Services SAP Solutions) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-le-e4s-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - TUS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-tus-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - AUS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-aus-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表2.4 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 8

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 <arch> (RPMS、Debug RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-<arch>-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 IBM z Systems - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-s390x-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 Power、リトルエンディアン - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-ppc64le-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 ARM 64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-aarch64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 Power、リトルエンディアン - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-ppc64le-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64: Telecommunications Update Service (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-tus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - Advanced Mission Critical Update Support (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-aus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表2.5 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 9

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 <arch> (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-<arch>-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 x86_64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-x86_64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 IBM z Systems - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-s390x-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 Power、リトルエンディアン - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-ppc64le-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 ARM 64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-aarch64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 x86_64 - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-x86_64-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 Power、リトルエンディアン - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-ppc64le-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

## 2.4. デプロイメントワークフローと参照製品ドキュメント

Satellite のデプロイメントと必要なデプロイメントワークフローに関するドキュメントは、[Satellite の概要、概念、デプロイメントに関する考慮事項](#) を参照してください。

## 2.5. 製品ライフサイクル

Red Hat Network Satellite と Red Hat Satellite のライフサイクルフェーズの概要および本製品のサポート状況については、[Red Hat Satellite の製品ライフサイクル](#) を参照してください。

## 2.6. コンポーネントのバージョン

Red Hat Satellite は、複数のアップストリームプロジェクトを組み合わせたものです。含まれるメジャープロジェクトと、Red Hat Satellite の各メジャーおよびマイナーリリースに含まれるプロジェクトのバージョンの詳細は、[Satellite 6 Component Versions](#) を参照してください。